

2-3 利水の現状と課題

2-3-1 水利用の状況

(1) 水利用の現状

- 古くより農業用水を主体とした水利用であり、農業用取水量は約 77.6m³/s、約 29,400ha の耕地に供給している。地域別では、名寄市、士別市に集中している。

表 2-3-1 天塩川水系水利用の現況（法定河川内の許可水利）

区分	最大取水量 (m ³ /s)	件数	概要
かんがい	77.57	281 件	本川最下流の取水施設は、河口から 120km 上流に位置する美深町の西里揚水機場である。かんがい普通期の取水量 1m ³ /s 以上の取水施設は本川に 7 件あり、施設の統廃合が進められている。
水道	0.33	6 件	名寄市水道は名寄川真勲別頭首工から最大約 11,200m ³ /日、取水している。士別市水道は天塩川から最大約 11,000m ³ /日、取水している。
鉱工業	1.08	3 件	名寄川真勲別頭首工から最大約 50,000m ³ /日の取水を行う北陽製紙工業用水が最大であり、鉱工業用水の約 5 割を占める。
発電	50.13	3 件	岩尾内発電所・ポンテシオ発電所・仁宇布川発電所の 3 発電所がある。
その他	1.57	14 件	
合計	130.68	307 件	

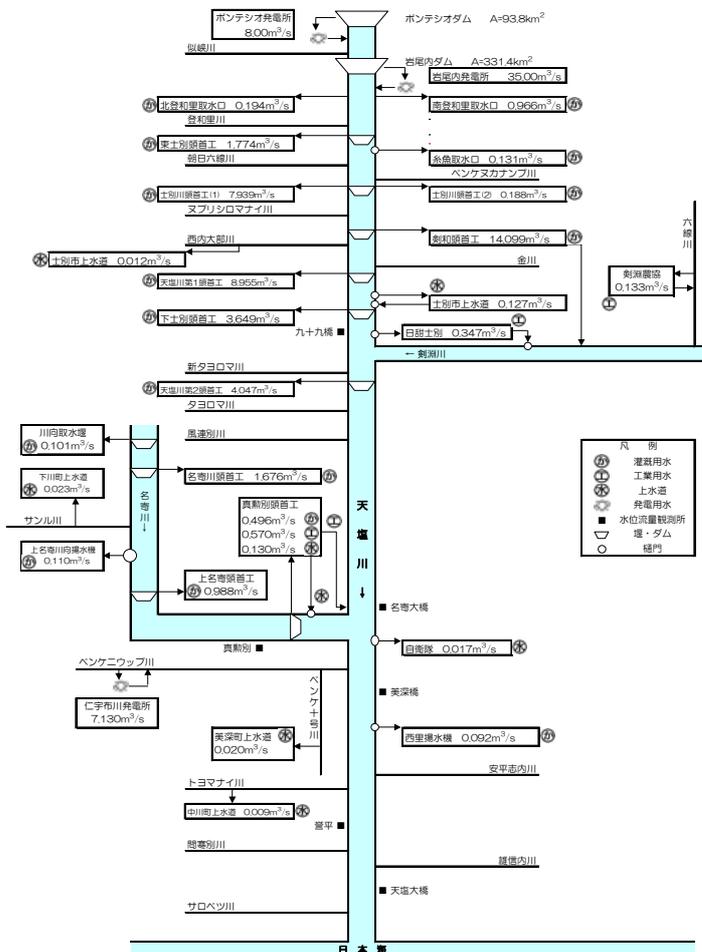


図 2-3-2 天塩川水系取排水図

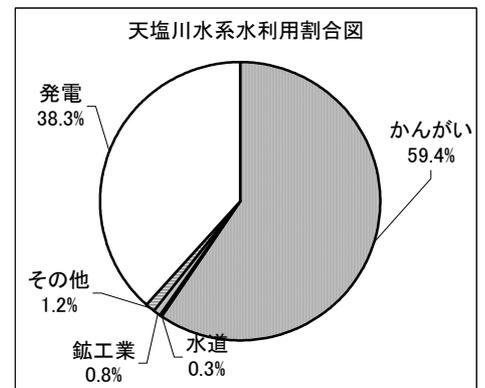


図 2-3-1 水利用割合図

(2) 水需要の動向

●天塩川流域の水需要は安定的に推移しているものの、名寄川沿いの名寄市、下川町においては近年の住民の使用水量の増加に対応するとともに、水道未普及地域への整備拡大による水需要の増加が見込まれている。また、環境用水の確保など長期的な展望に立った水資源の確保が求められている。

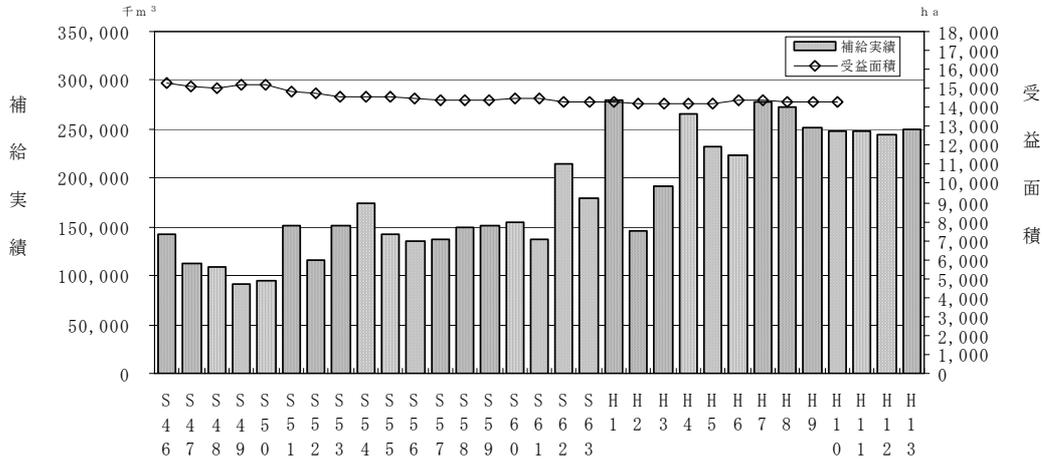


図 2-3-3 かんがい用水の受益面積と補給実績の推移

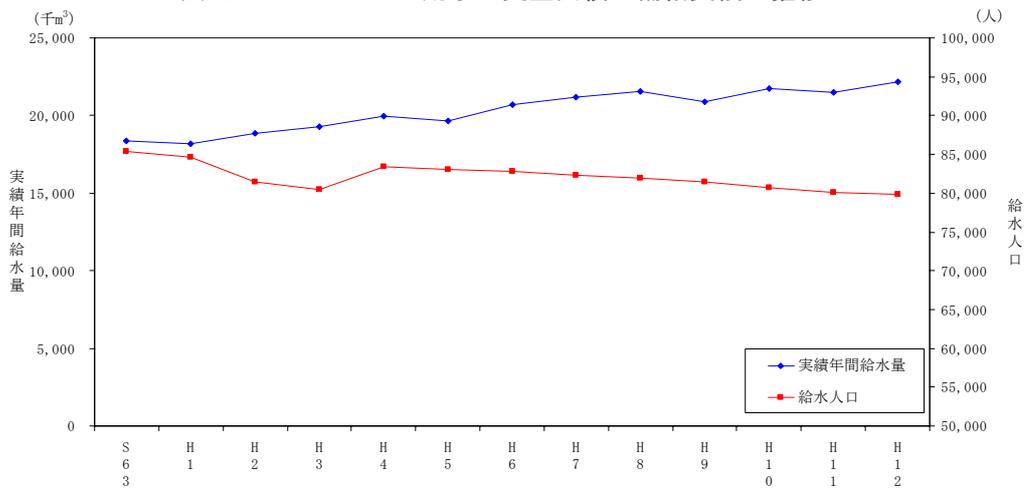


図 2-3-4 流域内の水道整備率の推移(北海道の水道より作成)

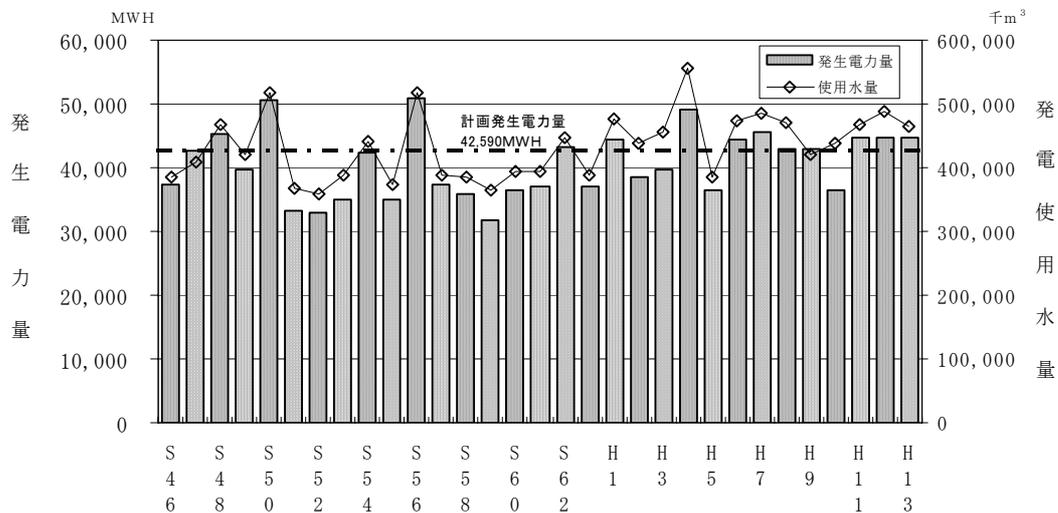
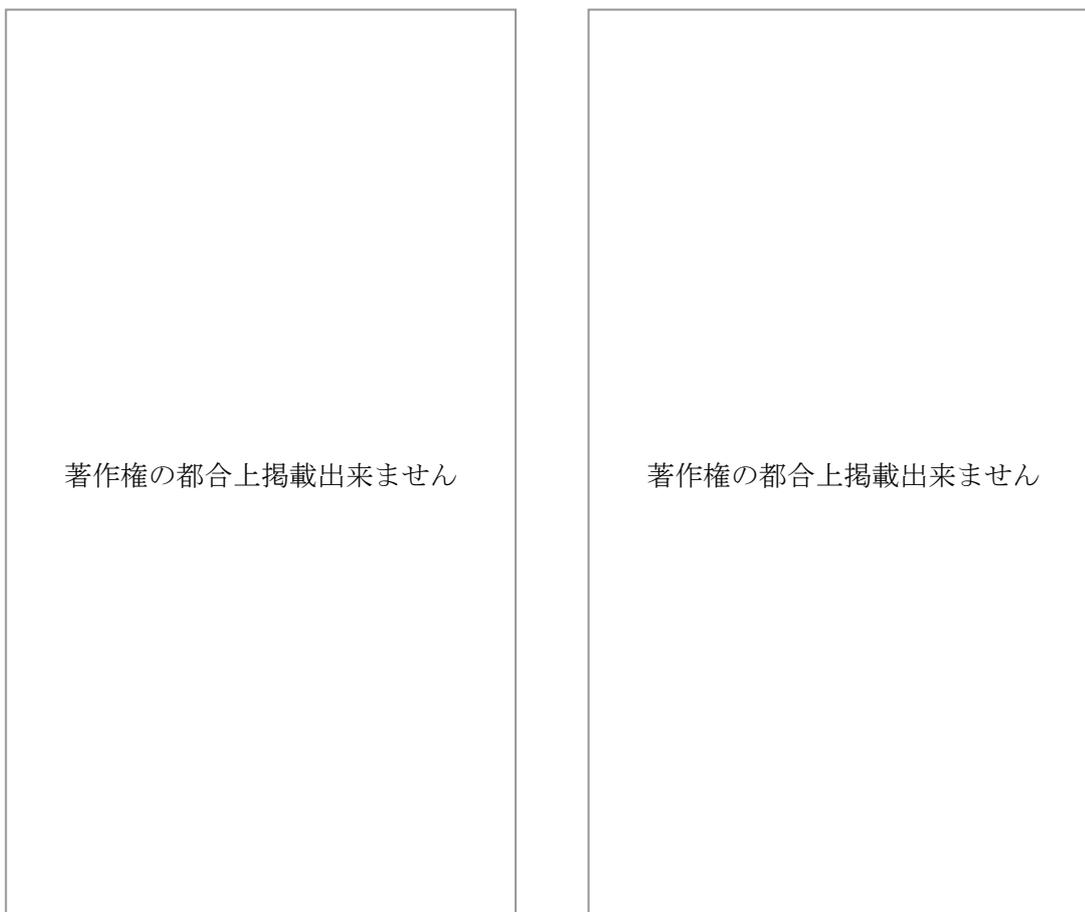


図 2-3-5 発電用水補給実績

2-3-2 渇水被害の概要

- 昭和 51、55 年、平成 5 年等で積雪量不足や夏季降雨量不足による渇水被害が生じている。
- 昭和 53 年には士別市長を会長とする「天塩川水系天塩川上流士別地区渇水調整協議会」が設立されているなど、地域の関心が強い状況にある。
- 近年においては、7 月の降雨量不足による平成 5 年渇水があり、岩尾内ダムの貯水量が常時満水容量の 3%まで低下し、渇水協議会において 35%の農業用水取水制限を決定した。しかし、最終的には岩尾内ダムの枯渇により、農業用水の取水がストップするなどして、水稻等の農作物に被害が生じた。



平成 5 年 8 月 5 日
北海道新聞社記事

平成 5 年 8 月 13 日
読売新聞社記事

図 2-3-6 平成 5 年 8 月渇水の新聞記事

2-3-3 利水における課題

項 目	課 題
既存の水利用	既存の水利用の安定的な確保に努める必要がある。
今後の水需要	今後の水需要に対しては、新たな水資源の開発を含め適正な利用の促進に努める必要がある。